

提 案

あなたの街に「災害に強い人づくり町づくり」を!!
炊き出し器の備えはその第一歩 ぜひ予算化を!!

01 東京で想定される大きな災害

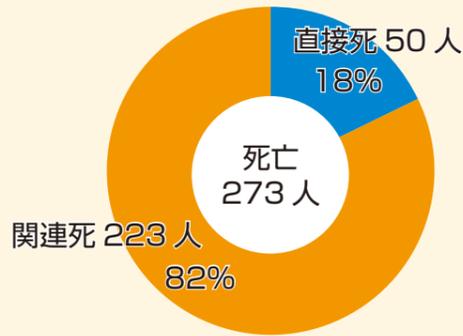
東京都が首都直下地震の被害想定を10年ぶりに改訂した。都心南部の直下でマグニチュード7.3の地震が起きた場合、区部の6割が震度6強以上の強い揺れに見舞われ、約6,100人が死亡する恐れがあるという。

(出典：2022/05/28付け読売新聞 首都直下地震 新たな課題にどう向き合うか)

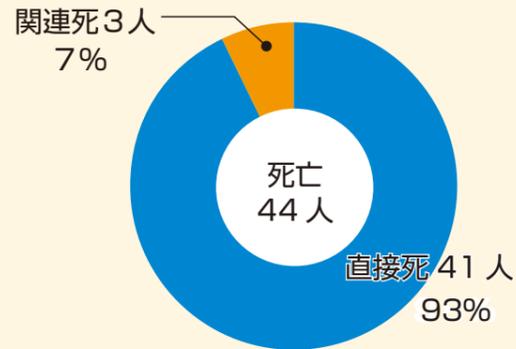
02 厚真町から学んだ対策

北海道胆振東部地震 厚真町で「災害に強い人づくり町づくり」を見た。
災害は都度違い一概に比較できない。私は両方の避難所の炊き出し場に関わったが北海道胆振東部地震、厚真町では「災害に強い人づくり町づくり」を見ることができた。

熊本地震 (2016)



北海道胆振東部地震 (2018)



●ではなぜ私に「災害に強い人づくり町づくり」を感じさせたかを
当時作成したパワーポイント資料から見てみよう

はじめに

地震は空襲で遭遇。ヤマヤ物産は、自己完結炊き出し資材は幸運にもトラックに積んでいた。
午前10時半には厚真町到着、商工会の協力により人口4600名の町に対し、毎食朝・昼・晩
1500/毎食を提供できた。しかし炊き出し主体は被災者たる町の人々によって行われた。

1、人

- 北海道人の力強さ 入植者魂 忘れていた先人の力 我々の先祖はそうであったかと
- 町中の仲の良さは災害時助かる上で絶対条件 自立は生命力だ 自助・共助・公助は相関関係。
- 日頃からイベントが多い 商工会婦人部は慣れている おそろいの赤シャツ・黒エプロン



2、モノ 物資

- さすが北海道 食の宝庫 買い求めたいものもあったが農家からの差し入れも多かった。枝付枝豆は50ℓケースに10杯 ミニトマト・トウモロコシなども
- 食・モノの調達・保管 商工会が毎日発注 多少の無理も 日頃の付き合いが功を奏す！ 冷蔵車が横付け 冷凍庫も冷蔵車内に収容 冷蔵車はアイドリングだけで動く
- カマドがあれば良いではなく 流し台・ポンプなどシステムでこそ自己完結 持参の炊き出し機材一式は十分機能した。



3、金 役場の働き・バック

- その日の10時半に厚真町に着き「炊き出しに来ました！」 役場担当者が受け入れ「是非に！」(西日本水害時には受け入れてもらえなかった)
- 役所は一般的に動きが遅いと思われがちだが、しかし厚真町は即決だった。(町の担当者3名が「人と防災未来センター」で研修を受けていた)
- 担当者が当方のアドバイスを聞き入れた。また防災無線で町内へ要請した。
 - ①災害救助法により一人一日当たり1,160円出る
 - ②食料調達は町中の商店・農協から調達 支払いは後日払いで
 - ③生産者は出荷できない農産物などは避難所が買う。
 - ④肉などは冷蔵庫が使えないので早めに持ち寄ってもらう。



03 「災害に強い人づくり町づくり」を実現するには

「災害に強い人づくり町づくり」を実現するには炊き出し器を備えるのが早道

- 1 日頃からイベントにも使うと調理の腕が上がり人と人とのつながりができる
- 2 食料備蓄があってもそれを調理するには炊き出し器が必需品
- 3 防災訓練などで人を集める場合は食があると人が集まりやすい
- 4 北海道など寒冷地では暖かさを作る器材は命にかかわるので重要
- 5 日頃炊き出し器を使っていれば、災害時に炊き出しは住民に任せられることができる

